

Title	編集後記
Sub Title	
Author	西谷, 謙堂(Nishitani, Kendo)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1963
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.2 (1963.) ,p.93-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000002-0092

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

 編 集 後 記

豪雪の大きな被害を残した冬も過ぎ、木蓮の蕾がふくらみ、沈丁花も遠からず芳香を漂わす季節が、まためぐってきました。さて「紀要」第1号（昭和37年6月発刊）について、第2号が漸く発刊の運びとなりました。ここにできあがったものは、いうまでもなく執筆者、編集委員及び印刷所三者の並々ならぬ骨折りが結果であります。

第1回の編集委員会に於て、第2号を特輯方式で編集するかそれとも独立の研究論文を集成する方式で編集するかの問題が検討されました。特輯方式で編集する方が望ましいということは、社会学研究科委員会の一つの有力な意見でもありました。そこでこの方式について活潑な意見の交換が行われました。特輯方式といいますが、そこには色々な形式が考えられるでしょう。例えば第1号のように、一つの専攻内での共同研究を主体とし、他に二、三の独立の研究論文を含ませるのも一つの形式でありましょうし、また一つのテーマについて各側面から、ここでいえば社会学、心理学及び教育学が相互に有機的に交渉をもちつつ、それぞれの視座から研究をすすめ、最後に一つの渾然たる成果をつくりあげるということも一つの形式でありましょう。さてその委員会の席上ある委員は「この第二の形式によって編集してはどうか」という意見を述べ、具体的にテーマをも提案しました。これに対してある委員は「第一の形式によるにせよ、第二の形式によるにせよ、特輯方式で編集する場合には、数年の間継続して共同研究を行っていたものを纏めるという風にするか、またこれから共同して研究するとすれば、少くとも2、3年の時を必要とするであろう」という意見を述べました。これから二つの意見をめぐって各委員がそれぞれ賛否の意見を述べあいましたが、最後に特輯

方式は紀要の性格上たしかに一つの望ましいものであるが、それは今後の課題として残し、第2号では各専攻別に執筆者が独自のテーマを取扱うという形式にすることが適当であろうという結論に達したのであります。この方式によってここに集成されて居ります8篇の研究論文は、それぞれの専門科目にとってはもちろん関連科目にとっても有益であることを信じています。

なお第2号には、社会学研究科が開設（昭和26年4月）されてから、昨年度（昭和37年3月）までに、修士の学位を授与されたものの論文題目と氏名とを、年度別、専攻別に掲載しました。その数は社会学専攻31名、心理学専攻36名に達して居ります。他に論文によって博士の学位を授与されたものが、心理学専攻に2名（その学位論文の要旨は第1号に掲載されて居ります）ありますので、これを加えますと、学位を授与されたものの総数は69名にのぼって居ります。因みに教育学専攻の修士課程は、昭和36年4月に開設され、同博士課程は昭和38年4月に発足する予定になって居ります。

この機会に一言書添えて置きたいのですが、それは昭和38年4月に社会学研究科（修士課程、博士課程）へ入学するものから「紀要」購読料として400円を授業料と同時に、会計部へ納金することになったことであります。己に在学しているものには、これは適用されない訳であります。ひとり残らず進んで購読して頂きたいと思ひます。

編集及び印刷に関する一切の事務は、佐藤方哉君（編集委員）に担当して頂きました。佐藤君はこの骨の折れる事務を極めて的確に処理して呉れましたし、また国際印刷の尾関一夫氏も極めて好意的且つ良心的に印刷の業務を運んで呉れました。両氏に厚く御礼を述べたいと思ひます（昭和38年3月15日、西谷記）。

編集委員

有賀喜左衛門、青沼吉松、山岸健
小川隆、佐藤方哉、小谷津孝明
西谷謙堂、村井実、井上坦

 慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 第2号 1963

昭和38年3月20日印刷 昭和38年3月27日発行 一部頒価 400円

編集兼発行人 西谷謙堂

編集所発行所

東京都港区芝三田2丁目2番地

慶応義塾大学大学院社会学研究科

印刷人 尾関一夫

印刷所

東京都中央区八丁堀3丁目13番地

株式会社 国際印刷
